

中1死亡 浜名湖ボート転覆1年

真相究明と再発防止を

浜松市北区の浜名湖で昨年6月、愛知県豊橋市立章南中学1年の私の娘西野花菜（当時12）が亡くなったボート転覆事故からあす18日で1年になる。「せめて『2人目の花菜』を出さないで」。一周忌を前に私は、子どもを預かる豊橋市や学校関係者に「もう戻らないあの子のためにも、改めて事故と向き合い、再発防止に真摯に取り組んでほしい」と訴えている。

「ただいまー玄関から笑顔の娘が入ってくる。手を握ると、ふんわりと柔らかい。生きていた！みんなに知らせなきゃ」

私が時々見る夢は、その辺りの夢で覚める。妻の光美も、似た夢をよく見るといふことを私は最近知った。妻の夢の中でも、娘は生前と同様に屈託がない。

一人娘のいない日々の中で、娘の友達の存在が支えになっている。

事故の半年後、章南中に、花菜が好きだった同姓同名の歌手西野カナさんのCDや本など約300点を並べた「花菜文庫」が置かれた。書籍の下に設けられたポストには、これまで100通を超える手紙が届いた。

13歳になるはずだった昨年9月26日の誕生日には、欲しがっていた携帯電話を買った。同級生にメールアドレスを教えると、「中間テスト 大変」「職業体験 行ってくるね」と絵文字だらけのメールが続々と届いた。「お友達の中でも、娘は生き続けている」

怒りや恨みを、懸命に抑えてきた1年だった。私たちは、学校関係者や行政に対し、事故の真相を究明し、全力で再発防止に努めてほしいと要望してきた。しかし、豊橋市は今春になって野外活動の指針を作成したものの、事故の具体的な真相究明には踏み込んでいない。

私は「豊橋市や学校は、すぐに『警察が捜

査中だから』などと口にする」と悔しさをにじませる。「自ら事故と向き合い、子どもを守るために何ができるのかをもっと考えて欲しい」。私たちはそう願っている。

業務致死容疑で捜査続く

静岡県警は、モーターボートを操縦していた三ヶ日青年の家の檀野清司所長のえい航方法や出航の判断などに問題があった可能性がある」とみて業務上過失致死傷容疑で捜査中だ。国交省の運輸安全委員会も事故の原因究明作業を進めており、昨年11月に発表した中間報告では、ボートに雨水がたまって左に傾き、その状態のままモーターボートでえい航されたことが転覆の原因となった可能性を指摘した。

事故から1年にあたり、豊橋市は18日にしない74の全小中学校で「学校ののちの日」を開き、命の尊さについて考える講演会などを行う。章南中では西野さんをしのび、地元のプロ音楽団体「ムースタジオ」主宰の大竹広治さんらによる演奏会も開かれる。また、今月26日には青年の家で西野さんを追悼する集い「光奏でる友と」が開かれ、西野さんをイメージしたブロンズ像の除幕式が行われる。

【2011年6月17日読売新聞参照】



花菜さんの冥福祈る

三ヶ日青年の家

所員、慰霊式や訓練

記 西野 友章

浜名湖のボート転覆事故から1年の18日、浜松市北区の静岡県立三ヶ日青年の家で、所員による安全訓練や、亡くなった西野花菜さんの慰霊式があった。

訓練は、中学生がウォークラリーをしている時に雷が鳴り始め、中止になったと想定。所員約10人が参加した。校長や引率者、所長役に分かれ、電話で連絡を取りながら、一時避難所への避難や、青年の家に戻る手順を確認した。

訓練後、所員から「実際に中止となれば、すぐに所員が一時避難所に向かうべきだ」などと意見が上がった。訓練に先立って行われた慰霊式では、所員らが花を手向けて西野さんの冥福を祈った。檀野清司所長は「改めて花菜さんのことを思った。二度と起こらないように、事故と向き合う」と語った。

【2011年6月19日中日静岡新聞参照】



えい航や天候への考え方学ぶ

浜松 WSNの安全講習初開催

記 西野 友章

全国の行政や企業など各種団体が参加して発表した、水の事故運動推進協議会「ウォータースーフティニッポン（WSN）」は18日、「水辺の安全講習会」を浜松市西区の商工会議所「キャリアック」で初めて開いた。浜名湖のボート転覆事故を受け、初回の会場に浜名湖周辺を選択した。事故が起きた県立三ヶ日青年の家所員らも参加し、水上で安全に体験活動を行うためのえい航や天候への考え方を学んだ。

「むらくし海の駅」の柴田昌宏代表は「引張る側と引られる側のバランスなどに不安定な状況が生じる」として救助時に行うえい航自体を問題視。救助する船の横に密着して運ぶ方法などを提案した。

NPO法人気象キャスターネットワークの田代大輔事務局次長は、天候急変を把握する方法を紹介した。浜名湖のボート転覆事故当日、朝から夜にかけて浜名湖上を前線が通過した天気図を見せ「前線が近づいてきた時は、天気が急変するので注意しなくてはならない」と話した。講習会は19日も、えい航の実践練習などを行う。

【2011年6月19日静岡新聞参照】

